

人間学会 ニュースレター

上智人間学会
2018年3月14日発行

1. 第46回大会のご案内
2. 研究発表・紀要原稿の募集について
3. 第45回大会報告記
4. 役員会・事務局からのお知らせ

1. 第46回大会のご案内

次回大会につきまして、役員会で協議した結果、下記の要領で開催することに決定いたしましたので、ご案内申し上げます。

期日：2018年8月31日（金）・9月1日（土）

場所：上智大学 四谷キャンパス

テーマ：イエズス会教育と人間学

今から110年前の1908年、三人のイエズス会士が日本への再宣教と高等教育機関設立のために来日しました。やがて1928年上智大学が設立され、1938年には六甲中学校（現在の六甲学院）が開校、戦時中の苦難を経つつも、その教育は着実に根をおろし、枝葉を拓げ続けてきました。

現在日本は、少子高齢化やグローバル化といった社会の構造変化にさらされ、中・高等教育のあり方も大きく揺るがされています。こうした変化の時に必要とされているもの、それは変わらない普遍的な価値を見失うことなく、人間とその社会の中に共に歩みながら、その価値の実現を指向するような教育観、そしてそれを支える深い人間理解だと言えるでしょう。この意味で、16世紀から現在まで一貫して、中・高等教育を通じた人間性の陶冶を活動の大きな柱としてきたイエズス会の教育は、今こそその真価を問われているのではないのでしょうか。

今年度の大会では、上智人間学会の「ルーツ」に眼差しを向けつつ、教育のあり方と「人間観」とを今一度深く結び直す可能性について、ご一緒に考えて参りたいと存じます。

皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2. 研究発表・紀要原稿の募集について

☆第46回大会研究発表の募集

上記の大会テーマを共通課題として、研究発表を募集いたします。(質疑をのぞき25分程度)
なお、研究発表は他に発表したことのないもので、人間学に関係した内容に限ります。

【発表応募締切】

所定の申込用紙に記入の上、

2018年5月7日(月)必着で事務局へお送り下さい。

【発表応募に対する回答通知】

2018年6月初旬までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【発表概要の事前提出期限】

大会研究発表の発表概要の提出期限は2018年8月27日(月)

A4版で3~5枚、原則としてワープロ作成

☆『人間学紀要』第48号論文の募集

2018年度紀要(2019年1月31日発行予定)の原稿を、下記の規定に基づき募集します。なお、2015年度より「原稿の提出」をもって論文の「応募」を受け付けることになりましたので、ご注意ください。論文は査読の上、掲載の可否を通知いたします。掲載可の場合でも、内容により加筆修正や掲載区分の変更などをお願いする場合があります点をご了承下さい。

【論文応募締切】

所定の申込用紙(7月発行ニュースレターに同封予定)に記入の上、原稿およびデータと合わせて

2018年9月28日(金)必着で事務局へお送り下さい。

【応募に対する回答通知】

2018年11月末までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【投稿規定】

- ・本学会会員に限る。
- ・他に発表したことのないもので、人間学と関わりのある新原稿であること。
- ・枚数は、論文は400字詰原稿用紙で40枚以内、研究ノートは同20枚以内(いずれも脚注を含む)相当とする。
- ・原稿は原則としてワープロ作成(A4版・40字×30行)とし、原稿提出の際、機種、執筆者を明記のCD-ROMまたはフロッピーディスク等も同封すること。
- ・図表等は必要最小限とし、そのまま印刷可能な状態のものを用意すること。
- ・原稿は所定の期日までに「上智人間学会事務局」宛に3部郵送すること。
- ・原稿には日本語表記に加えて、英文のタイトルおよび執筆者氏名を標記すること。
- ・原稿冒頭に掲載するため、400字以内の要約を添付すること。

3. 第45回大会報告記

去る2017年9月1日と2日の両日に渡り、岡山市のノートルダム清心女子大学を会場として、第45回大会が開催されました。今回は「受苦の人間学」をテーマに、基調講演とシンポジウムおよび会員による研究発表が行われました。

一日目にはまず「シスター渡辺和子の遺したもの」と題して特別企画シンポジウムが行われました。学園葬のために制作されたスライドショーの上映に続いて、ノートルダム清心女子大学の山根道公副学長にご参加いただき、カトリックの人間教育の先頭に立って歩まれたシスターから、私たちが何を学び、受け継ぐべきかについて語り合い、ともに考えました。

基調講演には、批評家の若松英輔先生をお迎えし「悲しみの近代日本精神史」と題してお話を伺いました。先生は、悲しみという感情はただ「肉体が涙を求める」のみならず、精神がそれに対して「言葉」を求めるものだとする小林秀雄の一節を示され、苦悩を生きる人間にとって、言葉が失われつつも同時に渴望され、言葉を通じて何かがすくい出される、そうした営みの神秘的な豊かさについて、様々な実例を挙げて論じられました。抒情的かつ明晰な言語感覚から泉のように湧く先生の語り一同魅せられ、言葉を生きるという人間固有の経験の意義を、深く見つめ分かち合うひとときとなりました。（若松先生には、ご講演に関連して『人間学紀要』に随想をお寄せいただきましたので、ぜひご味読下さい。）一日目の終了後には後楽ホテルを会場として懇親会が行われ、おいしい料理を囲みながら和やかに語らいのひとときを過ごしました。

二日目には、大学オラトリイにてミサが捧げられたのち、学会員による研究発表が行われました。（兼子盾夫、佐々木隆、中里郁子、岡田基生、空閑厚樹、鈴木伸国の各氏：発表順）共通テーマである「受苦」の問題を軸として、人間学の基底やその現代的課題を論じる意欲的な発表が続き、活発な質疑応答が行われました。

*

大会前日の8月31日には「岡山・長島のハンセン病施設を訪ねる」と題したオプションツアーが行われ、9名が参加して「邑久光明園」と「長島愛生園」を訪れました。

「光明園」園内の小高い丘上には監房が残されており、監禁された入所者が壁に書き付けた文字などを今もはっきりと読み取ることが出来ました。新しくオープンしたばかりの資料展示室では、大阪から移設復興された光明園の歴史などについて、学芸員の方から詳しい説明をいただきました。

「愛生園」では、まず歴史館にて学芸員の方の丁寧な説明をいただきながら、ハンセン病の基礎知識から差別の歴史的な経緯、実態などにわたる詳細な展示を見学しました。続いて園内を歩いて、収容棧橋から「回春寮」と呼ばれた収容施設、監房跡地を通過して「恵みの丘」（万霊山）にのぼりました。そして最後に、入所者のお一人である広瀬哲郎さんのお話を伺いました。広瀬さんは淡々とした語り口で、ご自身の来歴と長島におけるハンセン病療養の歴史について説明された上で、隔離と差別という人権問題の視点でのみ、日本におけるハンセン病史を語るべきではない、という当事者としてのお考えを述べられました。断種や強制収容などの事実は確かに重大な人権問題です。しかし、当事者ではない私たちがそれを告発しようとするとき、そこに置かれた人たちの、それぞれに多様な「一人ひとりの人生」があったことを、忘れがちであるように思われます。戦争へと突

入し、そもそもの日常が人権の否定であったような時代の中で、長島の入所者たちもそれぞれに人として「その時代を生きた」のだという、この「当たり前の事実」を出発点にしてこそ、私たちは、ひとりの他者の人生の重みによりやく触れることができるのかもしれませんが。広瀬さんはただ「ハンセン病」の問題に留まらない、普遍的な人間理解への問いを、私たちに投げかけておられたように思います。お話の深い印象をそれぞれに心に刻み、分かち合いながら、一同帰路につきました。

当日の様子については、写真を交えて、以下のブログ記事を書かせていただきましたので、よろしければご覧ください。<http://www.ndsu.ac.jp/department/human/blog/2017/10/post-60.html>

(ノートルダム清心女子大学人間生活学科ブログ)

(記: 崎川)

4. 役員会・事務局からのお知らせ

★例年になく厳しい寒さが続きましたが、ようやく春めいてまいりました。諸般の事情により、2017年度の『紀要』の発行が遅れ、ご心配をおかけしておりますが、三月中にはお届けできる見通しですので、今しばらくお待ち下さい。

★2018年度の大会は、上智大学での開催になります。昨年1月に「ソフィアタワー」が竣工、北門も新たな装いに生まれ変わりました。

★基調講演は、イエズス会の李聖一神父をお願いしております。長年イエズス会の中高で教育使徒職に携わってこられた同師は、現在上智学院のイエズス会中等教育担当理事であられ、イエズス会教育推進センターの運営にあたっておられます。日本各地のカトリック学校ばかりでなく、広く世界のイエズス会教育の現状にも通じておられる方から、若者の教育について貴重な示唆をいただけるものと期待しております。上智人間学会が志す「人間教育」の原点を再確認する好機ともなるでしょう。

★ご逝去

川中 なほ子 (元・藤女子大学副学長) 2017年10月17日ご帰天 88歳

上智人間学会ホームページアドレス

<http://ningen-gakkai.org>

上智人間学会 役員会／事務局

会 長 瀬本 正之

事務局 (担当: 田代奈津子)

幹 事 高山 貞美 崎川 修

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

会 計 武田なほみ 丹木博一

上智大学神学部 (キリスト教人間学) 事務室内

紀要編集 中村友太郎 崎川 修

TEL 03-3238-3529 FAX 03-3238-3945

久保 文彦 吉川 まみ

E-mail: theolo-2@sophia.ac.jp

会計監査 長島世津子 堀井 泰明